

【基本施策6】 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への支援と地域活性化

		所属名	オリンピック・パラリンピック推進課
事業No.	事業名		
43	ホームページの開設		
事業概要	写真や動画を用いながら、東京2020オリンピック・パラリンピックに関する情報をわかりやすく紹介する。		
計画目標	新規	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度実績	・区ホームページに東京2020オリンピック・パラリンピックに関するページを作成し、掲載内容の充実を行なった。		
評価の理由	・前年度からより見やすいページとすることを目的とし、時系列で掲載していたものをカテゴリ別に表示するよう変更を行った。さらに、テコンドー競技の紹介や目黒区ゆかりの選手に取材をして閲覧者に東京2020大会へ関心を深めてもらうページの作成を行った。		
課題など	・東京2020大会組織委員会からの情報が増えることや、区民の東京2020大会の関心が高まることから適時なページ更新とオリンピック・パラリンピックに関連する他課の取組を一元化して、わかりやすい情報発信をしていく必要がある。		

		所属名	オリンピック・パラリンピック推進課
事業No.	事業名		
44	オリンピック・パラリンピックに関するパネル展の実施		
事業概要	区民まつり、スポーツまつり等のイベントの際にパネル展を実施し、広く区民に情報提供及びオリンピック・パラリンピック競技大会の啓発を行う。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度実績	①目黒区商工まつり:620人(ボルダリング体験) ②目黒区民まつり:480人(車いすテニス体験) ③あじさい祭り:183人 ④めぐろスポーツまつり:121人 ⑤目黒区総合庁舎パネル展:1,600人 ⑥ティーンズフェスタ・イン・めぐろ:54人(VRフェンシング体験) ⑦目黒区成人の日のつどい:170人 ⑧MIFA国際交流フェスティバル:100人		
評価の理由	・パネル展の開催は、多くの来場者が見込める他の事業に合わせて展示したことにより、普段、オリンピック・パラリンピックに興味を持っていない方達の関心作りを行うとともに、オリンピック・パラリンピック競技体験等を併せて行なったことで一層の理解促進と機運醸成を図ることができた。		
課題など	・東京2020大会全体への興味関心だけでなく、各種実施競技への興味関心と理解を深めてもらうようなパネル展の内容を検討していく必要がある。		

		所属名	オリンピック・パラリンピック推進課
事業No.	事業名		
45	【重点事業】機運醸成事業の実施		
事業概要	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた機運の醸成や目黒のまちの魅力を発信していく。</p> <p>①めぐろ10kmマラソン(仮称)大会を実施する。 <再掲 事業番号29></p> <p>②スポーツ観戦事業を実施する。 <再掲 事業番号2></p>		
計画目標	新規	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度実績	<p>①第4回目黒シティラン～健康マラソン大会～の開催 種目・参加者数:10kmの部 2,685人 2.5kmミニマラソン小学生の部 144人、中学生以上の部 84人、親子ペアの部 126組 1kmウオーキング 72人</p> <p>②トップアスリート競技観戦事業観戦種目及び参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競泳 27人 ・レスリング 41人 ・バスケットボール 39人 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウントダウンモニターの設置(目黒区総合庁舎西口ロビー)※平成29年度から継続 ・東京2020大会 懸垂幕の設置(目黒区総合庁舎 東口)※平成29年度から継続 ・競技体験イベント(VR車いすレース、ボルダリング、車いすテニス、VRフェンシング、ボッチャ) ・東京五輪音頭-2020-の普及 ・東京2020大会1年前企画(SNS風顔出しパネルの作成、マスコット競技ポーズ記念撮影パネルの作成設置) <p>※マスコット競技ポーズパネルは総合庁舎南口に常設</p>		
評価の理由	<p>・平成29年度から総合庁舎西口ロビーに常設したカウントダウンモニターにより、来庁する多くの方へ東京2020大会の意識付けができています。また、大会開催1年前企画ではフォトパネルを制作し多くのイベントで活用することで東京2020大会に向けて一層の機運醸成を図ることができました。</p>		
課題など	<p>・年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、東京2020大会の1年延期が発表された中、感染症拡大防止の対策を講じながら引き続き機運醸成を図るべく事業を企画していく必要がある。</p>		

		所属名	スポーツ振興課、教育指導課
事業No.	事業名		
46	オリンピック・パラリンピック教育		
事業概要	<p>①東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催時に、よりスポーツ観戦を楽しむため、競技種目など見所を解説する講座などを実施する。(スポーツ振興課)</p> <p>②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえ、幼児・児童・生徒がスポーツにより心身の調和的発達を遂げ、オリンピック・パラリンピックの歴史・意義や国際親善、障害者理解の促進、ボランティア活動など、その果たす役割を正しく理解し、我が国と世界の国々の歴史・文化・習慣などを学び、交流することを通じて国際理解を深めるよう、年間35時間程度を目安に全区立小・中学校(園)でオリンピック・パラリンピック教育を推進する。(教育指導課)</p>		
計画目標	拡充	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	A:計画目標を上回って達成した
令和元年度 実績	<p>① 区立体育施設指定管理者の実施事業において、パラリンピック種目(ボッチャ等)体験会を実施した。オリンピック・パラリンピック開催気運醸成事業として、オリンピック・パラリンピアンによるデモンストレーション及び教室を行った。 また、めぐろスポーツまつりにおいて、オリンピック種目であるラグビーの実演と解説を行い、終了後は参加者による体験会を実施した。 年度末には中央体育館リニューアル記念スポーツフェスティバルにおいて、オリンピック種目の実演と体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のためイベント全体が中止となった。</p> <p>② (1)オリンピック・パラリンピック教育推進校 全校(園)「4×4の取組」によるオリンピック・パラリンピック教育活動の計画と実施 ・オリンピック・パラリンピック教育アワード校:田道小学校、東根小学校、第十中学校 ・夢・未来プロジェクト げっこうはらこども園(「YOKOSO」プログラム)サッカー元日本代表石川直宏氏による講演・実技指導 中目黒小学校(「YOKOSO」プログラム)バスケットボール元日本代表大山紗子氏による講演・競技観戦 烏森小学校(「Welcome」プログラム)ケニア出身のマラソン選手サイラス・ジュイ氏による講演・実技指導 ひがしやま幼稚園(「自分にチャレンジ」プログラム)ブラインドサッカー選手加藤健人氏による実技指導 大岡山小学校(「自分にチャレンジ」プログラム)車いす陸上競技選手の永尾嘉章氏、廣道純氏による講演・実技指導 油面小学校(「自分にチャレンジ」プログラム)ブラインドサッカー選手加藤健人氏による実技指導 ・パラリンピック競技応援校 中根小学校 車いすラグビー協会の方々を招いた講演 ・文化プログラム・学校連携事業実施校第十中学校 講師を招いたマナー教室を実施</p> <p>(2)他課との連携 ・中央体育館がテコンドーの公式練習会場として使用が決定されている。オリンピック・パラリンピック推進課と連携し、テコンドー体験教室を開催し、7校(園)が参加した。 ・文化・交流課と連携し、ケニア共和国と交流している緑ヶ丘小学校第4学年と栄養士が「せかいむすび」プロジェクトに参加した。</p>		
評価の理由	<p>①東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催時によりスポーツ観戦を楽しむことができるよう、オリンピック・パラリンピアンを招へいし教室内容を工夫した。また、めぐろスポーツまつりの日程がラグビーワールドカップ開催期間と重なったこともあり、デモンストレーションのラグビーの実技と解説が機運醸成にも繋がった。</p> <p>②全ての学校が年間35時間程度を目安とした、オリンピック・パラリンピック教育を計画通り実施したことに加え、東京2020大会における子供の競技観戦対応について計画を示すことができたため。</p>		
課題など	<p>①引き続き、より多くの種目をより多くの方に紹介できるよう努める。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症予防に向けた対策を講じた上での講演会、実技指導の実施方法や競技観戦の方法の内容の検討が必要であること。</p>		

		所属名	文化・交流課
事業No.	事業名		
47	海外友好都市や区内大使館等との交流事業		
事業概要	目黒区と海外友好都市や区内大使館等が住民・自治体レベルで積極的に友好交流事業を推進することにより、相互理解を図るとともに、両都市間の友好親善や協力関係の増進につなげる。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度実績	①三区間交流事業の実施 中浪区において、北京市東城区及びソウル特別市中浪区の三区の中学生による三区間交流事業(種目:バスケットボール)を実施した。 ②目黒シティランへの大使館の協力 ③中学生「東京駅伝」大会へのケニア人選手の派遣		
評価の理由	平成29年度から実施している三区間交流事業は3区の連携により令和元年度についても問題なく実施することができた。ホストタウン事業についても、新たに中学生「東京駅伝」大会へのケニア人選手の派遣等新たな取り組みを行うことができた。		
課題など	三区間交流事業については、令和元年度で開催区が一巡したところである。次回以降については、女子生徒も参加し、種目はバドミントンにすることを三区間による意見交換で決定したところであるが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は中止を決定していく。今後については、3区により協議・検討していく必要がある。		

		所属名	オリンピック・パラリンピック推進課
事業No.	事業名		
48	事前キャンプ地誘致		
事業概要	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に伴い、事前キャンプ地として目黒区をPRし、誘致する。		
計画目標	新規	目標に対する評価 (令和元年度末現在)	B:計画目標を達成した
令和元年度実績	・東京都オリンピック・パラリンピック準備局が運営する、東京都内の体育施設等を紹介する事前キャンプガイドホームページに区立体育施設の情報を提供してPRを図った。		
評価の理由	・目黒区は大会競技会場の指定がなく、平成30年に区立中央体育館がテコンドー競技の公式練習会場に決定した。大会期間中は中央体育館の一般利用ができないため、現時点での積極的な誘致活動は行わず、体育施設の紹介に留めている。		
課題など	・公式練習会場となった中央体育館はオリンピック・パラリンピックの前後を含め、1ヶ月以上一般の利用がなくなることから事前キャンプの誘致については、区立体育館全体の利用状況を鑑み慎重に進める必要がある。		